

2月10日阪南市日中友好協会の春節会に参加して

本年も、中国の新年を祝う春節会が南海電車淡の輪駅にある池田泉州銀行研修所で盛大に開催され、お招きを受け見本、許副会長が参加させて頂きました。

大阪府日中友好協会谷井会長や藤井事務局長始め和歌山外国語学校の留学生10名と先生が参加し、総勢56名で阪南市日中友好協会の皆様と楽しい一時を過ごしました。11時から2階和室で約1時間、阪南市出身の桂ひろば(師匠：桂ざこば)の落語とプロ並みの手品で笑いの渦と拍手喝采で一同春節を祝いました。

その後一階の食堂に移動し、お馴染みの“すき焼き”を賞味させて頂きました。毎回“すき焼き”には高級和歌山牛の霜降り肉が使用され、ビール・日本酒・焼酎・白酒などで乾杯の繰返し。更に今年も“びんご大会”で大盛り上がり。

今回の春節会の特徴は、谷井会長が「地区協会のイベントには今後積極的に参加し、地区協会毎の交流も深めて行く」の方針の下出席された事です。宴会時事務局長を含め谷井会長と、尖閣諸島を巡る日中間の危機的状況下での友好団体の活動について意見交換を行いました。危機管理の鉄則である「悲観的に検討し楽観的に対処する」事を念頭に、不幸にして偶発的衝突が発生した時の対処方法を事前に検討すべきではないかと提案しました。谷井会長は両国上層部の情報を下にそれは回避できるとの認識を述べられましたが、私は「現状は日本が戦争に突入する切欠となった1936年2・26事件当時(国粋主義の青年将校の反乱)の状況と酷似している。現場将校の反乱や突出が起こる可能性がある」との悲観的観測を下に一致結束した民間友好団体の行動の統一性を図る事が重要と持論を述べました。最終的に谷井会長の了承を得て、藤井事務局長と今後継続して議論を進める事になりました。

また、本年11月に予定している「日中伝統美食の供宴会」に、伝統芸能を加えた方が盛り上がるのではないかと許副会長と相談後、桂ひろば氏に打診した所、了解を取り付けましたが、経費面も含め実現に向け検討していきたく思っています。

今回の春節会は、色々な意味で非常に有益だった事を報告いたします。



桂ひろば落語



大阪府日中 谷井会長挨拶



懇親会風景(左：明石会長)

報告：見本重宏